

News Release

日本脳卒中協会とバイエル薬品の協同事業:

脳卒中患者さんと医療従事者のコミュニケーション促進へキャンペーンを開始

- 2021年に始まった毎年10月の「脳卒中月間」から実施
-

大阪、2021年10月1日 — 公益社団法人日本脳卒中協会(所在地:大阪市、理事長:峰松一夫、以下日本脳卒中協会)とバイエル薬品株式会社(本社:大阪市、代表取締役社長:フリオ・トリアナ、以下バイエル薬品)は、脳卒中を経験された患者さんと医療従事者のコミュニケーションのさらなる促進を目指すキャンペーンを開始したことをお知らせします。患者さんや医師のビデオレターなどの動画を制作し、今年から新たに定められた本日、10月1日からの「脳卒中月間」を皮切りにキャンペーンを推進します。

日本脳卒中協会とバイエル薬品は、脳卒中患者さんとそのご家族と、医療従事者とのコミュニケーション促進のための活動を2021年度の協同事業として進めており、本キャンペーンは同事業の一環です。脳卒中の治療やリハビリテーションを適切かつ効果的に行うとともに、クオリティ・オブ・ライフの向上や患者さん中心の医療のためには、患者さんおよびそのご家族と医師(医療従事者)のコミュニケーションは大変重要です。そこで、患者さんおよびそのご家族、医師、それぞれの立場で体験したコミュニケーションの難しさや大切さに関するエピソードや思いを共有し、相互理解を深めていただくと共に、今後、よりよいコミュニケーションにつなげるためのきっかけやヒントとなることを期待し、計6本の動画を制作しました。一般の方々や医療従事者へ広くご案内していきます。

動画は、脳卒中患者さんとそのご家族3組から医師(医療従事者)へのビデオレターと、医師3名から患者さん・ご家族への返信となるビデオレターという対話形式で構成。患者さんからは、治療やリハビリテーションで苦勞したこと、医療従事者とのコミュニケーションで困ったこと、治療やリハビリテーションの過程でポジティブな気持ちになれたきっかけやエピソードなどが率直に語られる一方、医師からは患者さんやご家族へのコミュニケーションで心掛けていることや、患者さんの就労支援などについてのメッセージが送られました。今後、10名の患者さんから生の声を集めたメッセージ動画も制作する予定です。

日本脳卒中協会理事長の峰松一夫は本キャンペーンについて次のように述べています。「脳卒中は突然起こる病気です。突然、言葉が出なくなる、手足が動かなくなる、半身が痺れる、激しい頭痛がするなど、いろいろな症状があります。患者さん、ご家族にとっては、突然、いつもと違う状態、状況になってしまうわけです。わからないこと、今後の不安など、いろいろなことが頭をよぎり、どうして良いかわからないと思います。この動画では、患者さん、ご家族の悩み、思いを知ることができます。また患者さん、ご家族と私たち医療者のコミュニケーションがいかに大事であるか、ということをお教えします」

【キャンペーン動画の概要】

日本脳卒中協会またはバイエル薬品のウェブサイトより動画をご覧になれます。

- 1 患者さん・ご家族のビデオレター 3本(以下抜粋)
- 2 医師のビデオレター 3本(同)

山崎信さん(患者さん)

退院前に、忘れないんですけども、「あえて退院おめでととは言いません。これから勝負のときなので、負けずにリハビリ頑張ってくれることを願います」と先生がおっしゃってくれたメッセージをいただいたんで、それがもうすごい励みになりました。

熊本市市民病院 脳神経内科・リハビリテーション科
首席診療部長 橋本洋一郎 先生

私たち医療従事者の一言の重みをすごく感じました。リハビリのドクターなり、スタッフが、そういう患者さんの性格とか、考え方をうまく理解した上で、うまく自宅復帰とか、仕事復帰とか、非常に不安にかられてる中で、そういう気持ちに本人をさせることができたっていうのは、すごくよかったんじゃないかなと思います。

一番は病棟で、気軽にお互い声掛けができるという雰囲気を作っていく。もう一つ、医師だけではなく、薬剤師、脳卒中の認定看護師さんと師長さんとか、リハスタッフまで付いて回診をする、いわゆるチームでやってるんだっていうことを、患者さんにも分かってもらえるような、そういう状況を作っていくのは非常に重要なことだと思います。

岡田理砂子さん(患者さんのご家族)

「全失語」という言葉を聞いたときに、言葉の分からない外国に放り出されたような状態ですっていう説明を受けました。ただ、「失語症は、薄紙をはがすようにだんだんと年数をかけてよくなる障害だから頑張ってくださいね」ぐらいのことを言われたら、悲観して「先生、もう治療いいです」なんて言わなかったと思うんですね。だからそういうことも先生には、ちょっと言っていたらなって、今、思います。

日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野
大学院教授 木村和美 先生

全失語という言葉は、多分医学用語なんです。一般の方には何のことかよく分かんないのかなとは思いますが、もうちょっと分かりやすい言葉で説明してあげたほうがいいと。

恩師の先生から教えてもらったのは、医者になったら必ず朝夕、ベッドサイドに行ってお話を聞きなさい。それも聞くときに必ずベッドに座って、視線を一緒にしてお話しなさいっていうこと。あと漫画で説明する、絵を描いてっていうのが大事かなと思います。あとは「何でも聞いてください」っていうって、こちらから話し掛けると、向こうもたくさん聞きたいことあるんだと思うんですね。それで聞いてあげることは大事なのかなとは思っています。

福田展宏さん(患者さん)

「どれぐらいしたら仕事に戻れますか」と、一番気になっていたことを聞きました。「3カ月ぐらいはかかると思いますよ」と言われて、あまりに長いので、理由も分からずにショックを受けました。

お医者さんから、診察の最後に「何かありますか」と聞いていただいても、お忙しいところ申し訳ない、患者さんいっぱい待っていらっしゃるのもう最後のところで聞くのはちょっと忍びないという気持ちによくなります。そのため、反射的に「いえ、特にありません」と、本当は少し聞きたいことがあっても答えてしまいます。患者からの質問のとき(時間)を最初に設けてくださるとうれしく思います。

中国労災病院 治療就労両立支援センター所長
豊田章宏 先生

ご病気になったときに辞める辞めないの判断はしないでください。ショックを受けた状態は正常な判断ができません。そういうときに人生の大事なことを決めちゃ駄目なんです。辞めるのはいつでも辞められるし、もし仕事、辞めてしまうと、いろんな、社員を守ることは会社もできないんです。例えば傷病手当、有給もありますよね。まず第一に、すぐ辞めなくていい、そう思います。

弱音を吐いていいですよ。何も強くなる必要はないので。弱いところを出したほうが楽になることもありますので、ぜひそれを出して、聞いてもらって。でもみんな同じようなことを悩んでいるので、次に一歩でも進むっていうのをしていただければありがたいなと思います。

3 患者さん(10名)の思いを集めたビデオメッセージ 1本(今後公開予定)

4 1~3の総集編 1本(同)

脳卒中月間について

日本脳卒中協会は、脳卒中に関する知識を広め、一般市民の脳卒中に関する理解を高めることを目的に、2002年から19年間にわたり毎年5月最終週の「脳卒中週間」を中心に啓発活動を行ってきました。一方、世界脳卒中機構は、毎年10月29日を「世界脳卒中デー」として多くの啓発活動を行っています。日本脳卒中協会は世界と歩調を合わせ、これまでの脳卒中週間に変えて2021年より毎年10月を「脳卒中月間」と定め、10月の1カ月間に集中的に啓発活動を行うことにしました。

<http://www.jsa-web.org/citizen/93.html>

公益社団法人日本脳卒中協会について

脳卒中に関する正しい知識の普及及び社会啓発による予防の推進ならびに脳卒中患者の自立と社会参加の促進を図り、国民の保健、福祉の向上に寄与することを目的とし、1997年3月に任意団体として設立され、2005年3月に社団法人として認可後、2012年10月1日に公益社団法人に移行しました。2021年10月現在、46都道府県に48の支部があり、脳卒中を発症した患者さんやご家族を始め、医療従事者、行政・福祉関係者、一般の方々への情報提供や調査研究活動などを行っています。日本脳卒中協会に関する詳細は、ホームページ(<http://jsa-web.org>)をご参照ください。

循環器疾患および腎疾患におけるバイエルのコミットメントについて

バイエルは、循環器疾患領域における革新的リーダーとして、革新的治療のポートフォリオを充実させることで、「Science for a better life」をお届けできるよう長年にわたり取り組んでいます。心臓と腎臓は健康や疾患において密接に関わっており、バイエルはアンメット・メディカル・ニーズが高い循環器疾患と腎疾患に対する新しい治療アプローチについて、幅広い領域で取り組んでいます。バイエルの循環器フランチャイズには多くの製品があり、前臨床および臨床開発のさまざまな段階にあるその他いくつか

の化合物があります。これらの製品・化合物は、循環器疾患の治療法に影響を与える可能性のある標的やシグナル伝達経路を優先的に開発するバイエルのアプローチを反映しています。

バイエルについて

バイエルは、ヘルスケアと食糧関連のライフサイエンス領域を中核事業とするグローバル企業です。その製品とサービスを通じて、世界人口の増加と高齢化によって生じる重要課題克服への取り組みをサポートすることで、人々の生活と地球の繁栄に貢献しています。バイエルは、持続可能な発展を推進し、事業を通じて良い影響を創出することに尽力します。同時に、収益力を高め、技術革新と成長を通して企業価値を創造することも目指しています。バイエルブランドは、世界各国で信用と信頼性および品質の証となっています。グループ全体の売上高は 414 億ユーロ、従業員数は 100,000 名 (2020 年)。特別項目計上前の研究開発費は 49 億ユーロです。詳細は www.bayer.com をご参照ください。

バイエル薬品株式会社について

バイエル薬品株式会社は本社を大阪に置き、医療用医薬品、コンシューマーヘルスの各事業からなるヘルスケア企業です。医療用医薬品部門では、循環器・腎臓領域、オンコロジー領域、眼科領域、婦人科領域、血液領域、画像診断領域に注力しています。コンシューマーヘルス部門では、プレナタルサプリメントや美容サプリメント、腔カンジダ抗真菌剤に注力しています。同社は、技術革新と革新的な製品によって、日本の患者さんの「満たされたい願ひ」に応える先進医薬品企業を目指しています。詳細は www.pharma.bayer.jp をご参照ください。

公益社団法人日本脳卒中協会、バイエル薬品株式会社

2021 年 10 月 1 日、大阪

将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements)

このニュースリリースには、バイエルの経営陣による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements) が含まれている場合があります。さまざまな既知・未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因には、当社の Web サイト上 (www.bayer.com) に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。当社は、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負いません。